2009年度春季大会の報告

2009年度春季大会は，つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園2-20-3）を会場として2009年５月28日(木)～31日（日）に行われた．参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は855名（内訳は前納登録者490名，当日受付者365名）であった．

２日目午後には，つくば国際会議場大ホールにおいて総会が開かれ，中西幹郎・新野　宏両氏に日本気象学会賞が，秋元　肇氏と深尾昌一郎氏に藤原賞が授与された．総会に続いて受賞者による記念講演が行われた．３日目午後には，同会場において大会シンポジウム「地球温暖化に関する科学的根拠の解明と脆弱性評価のさらなる連携に向けて」が開催された．

今回は，ポスター及び口頭発表による一般講演と特定のテーマに基づいてコンビーナーが編成する５つの専門分科会が行われた．一般講演の発表申込み件数は315件（内訳はポスターが168件，口頭発表が147件），分科会は58件で計373件であった．

会期中およびその前日には，教育と普及委員会および数値予報開始50周年記念事業実行委員会の共催による公開講演会「数値予報の過去・現在・未来」，日本学術会議地球惑星科学委員会IAMAS小委員会との共催による「大気科学の将来展望と若手研究者問題に関する検討会」を含めて，個別のテーマによる７件の講演会や研究会が開かれた．

今大会の直前に新型インフルエンザの国内感染が始まり，その拡大が懸念されたため，５月10日に新型インフルエンザ対策委員会（以下対策委員会）が設置された．その後のめまぐるしく変化する情勢の中で，大会の前に開催を予定していた第４回日本・中国・韓国気象学会共催国際会議が延期となり，このために一部の前納登録者が参加できなくなった．一時は今大会の開催も危ぶまれる事態となったが，対策委員会・大会実行委員会による慎重な検討と準備，また気象研究所をはじめとするつくば地区会員の協力のもとで，懇親会以外の全ての大会行事を予定通り行うことができた（第４回日本・中国・韓国気象学会共催国際会議を含めた新型インフルエンザ対策全般の経緯については対策委員会の報告（p. 461）をご覧下さい）．

最後に，今大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂いた筑波大学生命環境科学研究科，宇宙航空研究開発機構，国立環境研究所，産業技術総合研究所，農業環境技術研究所，防災科学技術研究所ならびに大会運営にボランティアとしてご協力いただきました会員の皆様に深く感謝の意を表します．

2009年６月　講演企画委員会